



時をつむぐ会 続木美和子さん

地域づくりのきっかけ

「時をつむぐ会」という会は、みんなの手で絵本原画展をやっている、というもので17年前に始まりました。私自身が「本の家」という子どもの本専門店をやっている、色々な人達と知り合う度に、子どもの文化についてわかってきたのです。そして、そのことが広まってきた。ただ純粋に良いものを伝えたいという思いばかりで、そのことが地域づくりになっ

ていくことには結びついていませんでした。

群馬は地方ですが、今年催した展覧会が福岡の「福岡アジア美術館」で行われており、色々な所で真似して、発信してくれている、他県の人達もすごく期待してくれているのがここ何年かあります。

私達がやっていることが自己満足ではなく、色々な所に発信できているのだなと思えました。美味しい物を「食べて、美味しいよ」というのと同じように、「この本読んで」と手渡すことが地域づくりとか文化づくりになっていきました。

原画展のはじまり

今から七、八十年前位のアメリカの絵本の黄金時代に「ちいさいおうち」を描いたL・パートンさん、「100まんびきのねこ」を描いたW・ガアグさん、「もりのなか」を描いたM・エッツさんの三人の女流画家の原画が日本に来るといっ情報を得ました。東京では原画を観る機会がたくさんありますが、群馬県はないなど。絶対観たいよねっかしら。そして群馬県庁に行く、県民生活課の方がすごく面白がってくれました。その方との会話の中で「時をつむぐ会」という名前が決まりました、そんなご縁があつてこの会は始まりました。

それが17年前で、原画展もその年からです。ちょうどシティーギャラリーができた頃だったので、原画展のために貸して頂きたいと市長さんにお願ひに行つたところ、活動を応援して下さいました。今でもずっと応援して下さいます。原画展が始まってから、たくさんの方とお目にかかる様になって、公の機関の方にご協力頂かなければ

ばならなくなりました。そうして初めて自分達が社会参加をしていることに目覚めたのです。

原画展以外にも

私たちの仲間は本当に良い図書館を作りたいと、学校図書館の方とも色々なことをしています。絵本という物を文化とか芸術というような場所に置いて欲しいと、保育士さんの勉強会なども行っています。それはいつも勉強会をして仲間を増やしていかないと、みなさんの生活の中には位置づかないと思うからです。

子育て支援などをしていっている「びよびよの会」では、どうやって絵本を読んだらいいのかと聞かれたりします。そこで、「こうやって読めばいいよ、このくらい歳のだとこんな本がいいよ」と教えていく。

もう15年経ちますが、「びよびよの会」をやればやるほどひとりでも子育てに悩んでいるお母さんがたくさんいると気付きました。昔だったらもつとよその家の戸が開いていて、他の家の生活が見られる環境でしたが、今はお母さん達もどうしたらいいかわからない。それ



を私達が今やっているんです。今カッパピアをどうにかしようという企画があります。私は子どもを自然の中で育ててほしいと思つています。ドイツのハンス・ゲオルグ・ケルナーという人の自論で、「遊具なんて物に安全な物は世界中探してもない」というのがあります。遊具は子どもが危険を回避する力を養う為の物ではないかというのです。今日日本は危険だと言つて遊具をなくしています。私はケルナー氏にぜひ来てくれないかと言いました。来日したケルナー氏は観音山をすごく気に入ってくれて。子どもを産んで育てる一年か二年は、

その人の一生の中のつかの間の喜びだと思ふのです。そこで、授乳している時に幸せだなんて感じられる様な公園を作りたいと思つています。カッパピアの後に遊具があるとかすごくいい場所になると思います。それが今からやりたいこと、夢です。

最後に一言

よくNPOの人達と手をつなぎなさいと言われますが、難しい問題です。何かを始めようとするならば、そのことについて思いがある人達を新たに集めた方が良いでしょう。広く受け入れながら、公の機関とNPOと一緒にやっていくことが理想です。

子育てをしていると、どうしたらいいかわからなくてパニックになったりします。そんな時に大丈夫だよとか、違うよって言ってくれる人が近くにいたら、育てるのがもつと楽になるんじゃないかな。

子どもは地域がなくて育つものではなくて、お隣や近くの人の手によって育てられるもの。だから地域づくりと言うならばもつとお節介な人が増えることです。

「地域づくりにはもっと近くの人の手が必要」

時をつむぐ会 続木美和子さん

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、次にバトンを渡す人を紹介していただいております。第6回目は、角田亘さんからバトンを渡された続木美和子さんにお話を伺いました。



☺ やってきて良かったこと

仲間がいつぱい増えてきて、次の世代の為にという考え方を言い合えることかな。

📖 感銘を受けた本

井上ひさしさんの「ボロニーヤ紀行」という本。ボロニーヤのまちづくりの部分を読んで、私たちが思っている町が実際にあるのだからって思いました。

✍️ 印象に残る人物

高崎市長や県庁の方、シネマテークたかさきの茂木さんなどいろいろな方々にお世話になりました。数え切れないくらい印象に残る人たちはいます。

WHO IS NEXT?

次にバトンが渡る人は誰でしょう?

次号をお楽しみに!!